

平成 23 年度

---

---

# 市場概要

---

---

平成 23 年 7 月

盛岡市中央卸売市場

## 盛岡市の概要

盛岡の街づくりは、およそ 400 年前の慶長年間に、南部家 26 代信直公による盛岡城の築城に始まりました。その後、20 万石の城下町として栄え、明治 22 年の市制施行により、旧城下町を市域として、人口 29,190 人、面積 4.47k m<sup>2</sup>を有する盛岡市として誕生しました。

市の地形は、西部に秀峰岩手山を擁する奥羽山脈、東部にはスズランの名所である姫神山に代表される豊かな自然を誇る北上高地が美しい姿でそれぞれ南北に縦走しています。この間を南に流れる北上川は、これらの山地に水源を有する丹藤川、松川、中津川、雫石川、築川などの支流を合わせて、市街地の中央部を流れています。盛岡城は、この河川を天然の要害とする場所に築かれ、市街地も河川の合流点周辺に形成されました。

昭和に入って近隣の村との合併が進められる中、盛岡市は歴史と伝統を育みながら、政治・経済・学術・文化・交通等の中枢として、県都として発展を続け、平成 21 年に市制施行 120 周年を迎えました。

平成 4 年に南接する都南村と、18 年 1 月の北接する玉山村との合併を経て、平成 20 年 4 月には、自立性の高い都市実現に向け、より総合的な行政展開が可能となる中核市に移行しました。「人々が集まり・人にやさしい・世界に通ずる元気なまち盛岡」を実現するため、行財政運営の効率化と財政基盤の強化を図りながら、地域の人材や観光、産業、伝統文化等の資源を活用し、魅力ある街づくりの推進に努めています。

人 口	298,115 人 男 141,504 人 女 156,611 人
世 帯 数	125,814 世帯
面 積	886.47 km <sup>2</sup> (東西 45.6 km, 南北 40.7 km)
市役所所在地	岩手県盛岡市内丸 12 番 2 号

注 岩手県統計資料市町村別人口動態から（推計人口 平成 23 年 3 月 1 日現在）  
推計人口とは、国勢調査結果に毎月の人口移動（出生・死亡、転入・転出など）の数値を加減したものだ。

# 目 次

1 . 盛岡市中央卸売市場の沿革 -----	1
2 . 中央卸売市場の目的と役割 -----	3
3 . 盛岡市中央卸売市場のしくみ -----	5
4 . 盛岡市中央卸売市場の概要 -----	7
5 . 青果部年度別取扱高一覧 -----	9
6 . 水産物部年度別取扱高一覧 -----	10
7 . 平成22年度青果部品目別・産地別取扱状況-----	11
8 . 平成22年度水産物部品目別・産地別取扱状況 -----	13
9 . 残留農薬検査の実施状況 -----	15
10 . 盛岡市中央卸売市場運営協議会 -----	17
11 . 市場内関係業者 -----	18
12 . 盛岡市中央卸売市場の管理機構と事務分掌 -----	20
13 . 平成23年度盛岡市中央卸売市場費特別会計予算 -----	21
14 . 開設都市、市場数、取扱金額一覧 -----	22
参考資料 盛岡市中央卸売市場の豆知識 -----	25

盛岡市中央卸売市場施設配置図

# 1 盛岡市中央卸売市場の沿革

明治初期、惣門付近（現在の南大通二丁目）は近在の農家による朝市で賑わい、新山河岸（同三丁目）では北上川の舟運を利用して水産物が扱われていました。こういった「市」の利用者が多くなってくるにつれ、そこを基地として青果物や水産物を仕入れ、取引を拡大する問屋（旧問屋）が出現しました。

朝市の取引が盛んになると、路上取引が困難となり、明治中期には上衆小路（現在の下ノ橋町）に集合市場（海産物市場）ができ、惣門の朝市も馬町（現在の南大通、佐々兼商店付近）に任意組合的な青果市場として移転しました。また、明治後期に盛岡海産物委託株式会社（新問屋）が設立され、大正初期には旧問屋が盛岡魚市株式会社を設立し、任意組合的な青果市場は株式会社盛岡青物市場を設立しました。

盛岡の市場がこういった変遷を繰り返している最中、大正12年に中央卸売市場法が公布施行され、昭和2年に日本最初の中央卸売市場が京都市に開設されました。

昭和6年にそれぞれ上衆小路と馬町で営まれていた魚市場と青物市場が一本化され、現在の盛岡市中央卸売市場の前身ともいえるべき盛岡食品市場株式会社が菜園（現在の菜園二丁目）に設立されました。

昭和38年6月、盛岡市は農林省（現在の農林水産省）に対し中央卸売市場開設を表明し、都南村（現盛岡市）津志田地内に昭和43年10月1日、盛岡市中央卸売市場青果部を、昭和45年7月21日には水産物部を開場しました。全国では27番目、東北管内では仙台市に次ぐ2番目の中央卸売市場となります。

開場以来、岩手県内唯一の中央卸売市場として、市内はもとより県内全域をカバーし、生鮮食料品の安定供給に努めてきましたが、開場時の予測取扱量を基に整備された施設は、交通量の増大と売場等の狭隘化、施設設備の老朽化・機能不足などが課題となり、抜本的解決を図るため移転新設する方針を固め、平成5年に新市場整備基本構想を、平成7年には新市場整備基本計画を策定しました。

新市場は、農林水産省の第6次卸売市場整備計画に位置付けられた後、物流の変化に対応し、品質管理の徹底を図るため、青果卸売場への低温売場の設置や水産卸売場の定温化、配送センターや加工所の整備など高度な流通サービス機能を有する付加価値型市場として、高速自動車道路盛岡南インター至近の羽場地内に平成13年5月7日開場（広さ；23.5 ㍊、延床面積；87,216 m<sup>2</sup>、総事業費；約240億円）しました。

平成19年2月には、全国的に市場取引が低迷する中で、今後の市場の方向性と活性化の指針となる「市場活性化ビジョン」の提言を受け、現在、ビジョンに沿った取り組みを展開しています。また、平成22年3月には、市場全体の経営戦略や形態などについて検討協議を行うために「市場経営検討部会」を設置し、中核市にふさわしい、時代の要請に迅速、かつ、的確に対応する食品流通の拠点市場を目指しています。

## 沿 革 < 年表 >

年(西暦)・月	主なできごと
明治 初期	惣門(現南大通二丁目)の朝市がにぎわう。新山河岸(同三丁目)では北上川の舟運で問屋が水産物を扱う。
12 (1879)	舟運でりんごを初めて東京へ移出。東京へのりんごの出荷が始まる。
20 (1887)	上衆小路(現下ノ橋町)に集合市場(海産物市場)ができる。
22 (1889) 4月	盛岡市市制施行
23 (1890) 11月	東北本線・上野～盛岡間が開通。旅荷荷引に問屋の関心高まる。最初の旅荷は京菜、プラムなど。
24 (1891) 9月	東北本線・盛岡～青森間開通
25 ~30 (1892～1897)	惣門の朝市が馬町(現南大通二丁目)に移り、任意組合的な青果市場となる。
大正 12 (1923) 3月	中央卸売市場法公布。同年11月施行
昭和 2 (1927) 12月	わが国初の中央卸売市場が京都市に開設される。
6 (1931) 12月	上衆小路の魚市場と馬町の青物市場が一本化して、菜園(現菜園二丁目)に盛岡食品市場を開く。岩手県知事から市場開設の許可を受ける。
20 (1945) 10月	盛岡市役所脇に臨時の公設市場が開かれる。
31 (1956) 11月	盛岡市が市勢発展計画を公表。公設総合市場構想が盛り込まれる。
39 (1964) 4月	盛岡市が市場開設協議会を設置。
42 (1967) 10月	市場建設工事着工
43 (1968) 10月	盛岡市中央卸売市場開場(旧都南村津志田地内) 青果部開業
44 (1969) 5月	国道4号線盛岡バイパス全線開通
45 (1970) 7月	水産物部開業
	10月 国民体育大会秋季大会(岩手国体)開催
46 (1971) 4月	卸売市場法公布、同年7月施行
52 (1977) 11月	東北自動車道・一関～盛岡南インター間開通(53年11月に首都圏と直結)
53 (1978)	盛岡市が将来的市場整備の検討に入る。
57 (1982) 6月	東北新幹線 大宮～盛岡間開業
平成 元 (1989) 4月	盛岡市市制施行 100周年
3 (1991) 6月	東北新幹線 東京～盛岡間全区間開業
4 (1992) 4月	盛岡市・都南村合併(面積; 489.15km <sup>2</sup> , 人口; 276,114人)
5 (1993) 3月	新市場整備基本構想策定(付加価値機能施設拡充を盛り込む。)
7 (1995) 3月	新市場整備基本計画策定
9 (1997) 4月	新市場基盤整備工事着工
10 (1998) 12月	新市場中央棟建築工事着工
11 (1999) 6月	新市場付加価値機能施設(総合食品センター)建築工事着工
	8月 全国高等学校総合体育大会('99岩手総体)開催
12 (2000) 12月	新市場中央棟建築工事竣工
13 (2001) 3月	新市場付加価値機能施設建築工事竣工
	5月 盛岡市中央卸売市場(新市場)業務開始
14 (2002) 12月	東北新幹線 盛岡～八戸間開業
16 (2004) 6月	卸売市場法改正
18 (2006) 1月	盛岡市・玉山村合併(面積; 886.47km <sup>2</sup> , 人口; 300,746人)
19 (2007) 2月	市場活性化ビジョン策定
20 (2008) 4月	盛岡市が中核市に移行
22 (2010) 3月	市場活性化ビジョン推進委員会・市場経営検討部会設置

## 2 中央卸売市場の目的と役割

### 中央卸売市場の目的

中央卸売市場は、毎日の生活に必要な水産物・青果物などの生鮮食料品が、生産者から消費者のもとに届くまでの円滑な流通を確保するため、卸売の拠点として卸売市場法に基づき、地方公共団体が農林水産大臣の認可を受けて開設する施設で、平成 23 年 4 月現在、全国には 72 か所（44 自治体）の中央卸売市場があります。

### 中央卸売市場の役割

生鮮食料品は、鮮度が低下しやすいため長期保存が難しく、その鮮度によって商品の価値が著しく変化します。また、需要量に変動が少ないにもかかわらず、供給量（生産量）は天候その他の自然条件によって大きく左右されるという商品特性を持っています。このような生鮮食料品の売買取引を放任することは、過度の競争・不当な取引・非衛生的な取扱いなど、消費者及び生産者に著しい不利益をもたらす恐れがあり、社会生活に与える影響も大きいものになります。

このため、公正かつ迅速な取引を確保し、生鮮食料品の円滑な供給と消費生活の安定を図ることを目的として、地方公共団体が、衛生的かつ効率的な施設の建設や一定の経費負担を行い、中央卸売市場の管理・運営にあたっています。

### 主な役割

集荷機能	国内外から多種多様な品目の豊富な品揃え
分荷機能	多数の小売業者等への迅速で的確な分配
価格形成機能	需要と供給を反映した公正な価格の形成
決済機能	販売代金の迅速・的確な決済
情報伝達機能	需要と供給にかかる情報の収集・伝達
衛生の保持	衛生的な施設の確保と必要な検査の実施

## 盛岡市中央卸売市場の機能の特徴

盛岡市中央卸売市場は、近年の食生活や消費スタイルの多様化に加え、食の偽装問題等で消費者の「食の安全・安心」に対する意識が著しく向上したことに対応し、また、高度化が進む生鮮食料品流通の中で今後も中心的な役割を担っていくため、次のような従来の市場にはなかった新しい機能や設備を導入しました。

### 小売支援機能

- ・ 総合食品センター売場施設を整備し、市場でのワンストップショッピング(当市場で取扱う生鮮食料品とその他のドライ商品等の一括仕入)に対応しています。
- ・ 総合食品センター配送施設を整備し、北東北の小売店に対する商品供給・配送の充実を図っています。
- ・ 仲卸売場に併設して加工所を整備し、パック詰め等加工流通の要望に対応しています。
- ・ 売場及び売場に併設している通路全てに防雪用の屋根を、建物沿いに5mの庇を整備し、冬季や雨天時における荷の積み下ろしの利便性を確保しています。

### 安全安心な生鮮食料品供給

- ・ 青果部では、低温売場や保冷庫を整備し、コールドチェーン等物流機能の充実を図っています。
- ・ 水産物部では、売場全体の空調設備と出入口のシートシャッターにより、場内を約15に保つ定温売場を整備し、夏場でも売場内を一定の温度に保ちながら、鮮度、品質管理を徹底しています。
- ・ 仲卸配送センターを整備し、流通システムの効率化により、商品供給機能の充実を図っています。
- ・ 市場内で利用されているフォークリフトは、全体では約87%が電動式を採用し、食品の衛生保持と場内の大気環境の悪化を防いでいます。

### 地域や市民に開かれた卸売市場

- ・ 市場内に多目的ホール、PRセンター、会議室、調理実習室を整備し、市場見学者の積極的な受入、企業の商品開発や各種会議の開催、地域の料理教室等に利用され、広く市民に対して市場機能の理解を進めるとともに、食育を推進しています。

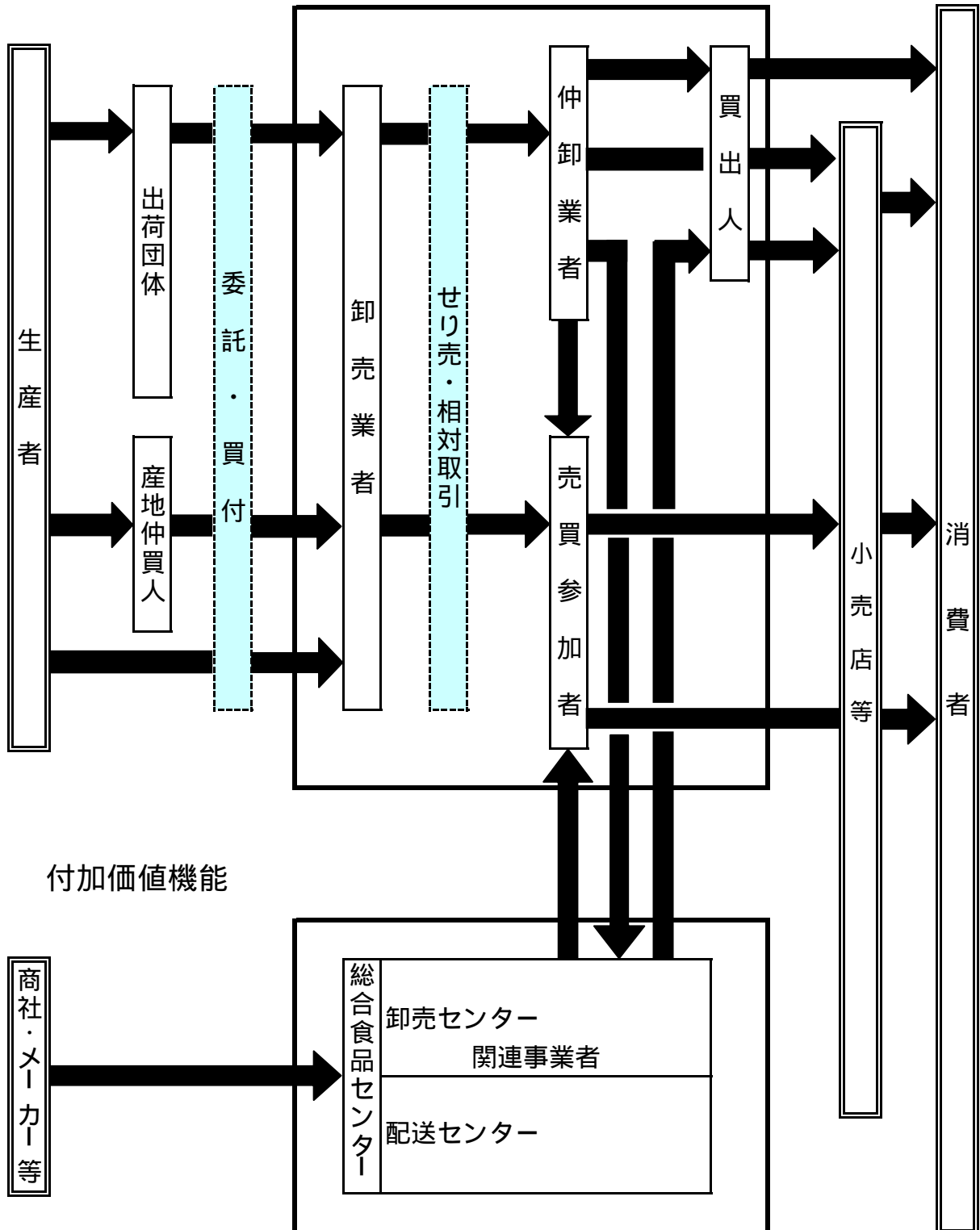
### 環境に配慮した取組み

- ・ CO<sub>2</sub>排出削減のために、市場から廃棄される野菜・果物くずや魚腸骨は、市場外の事業所において発電エネルギー・肥料及び飼料として再利用できるよう、分別廃棄に取り組んでいます。

### 3 盛岡市中央卸売市場のしくみ

《流通のしくみ》

基本機能



## 《用語の説明》

生産者	農業や漁業を営む者
出荷団体	青果物や水産物を中央卸売市場へ協同で出荷する組織（農業協同組合・漁業協同組合）
産地仲買人	生産者から買い付けた生鮮食料品を中央卸売市場等へ出荷する者
卸売業者	農林水産大臣の許可を受け、生産者又は出荷団体から集荷した物品をせり売又は相対取引により仲卸業者や売買参加者に販売する者。市場流通の中核的機能を担う
仲卸業者	開設者の許可を受け、卸売業者の行うせり売又は相対取引により物品を買入れ、市場内において仕分けし、分荷調整して売買参加者等に販売する者。卸売業者とともに、市場流通の中心となり、価格評価、荷分け、調整及び配送の機能を担う
関連事業者	開設者の許可を受け、次の業務を営む者 ・第1種関連事業者； 市場の取扱品目以外の生鮮食料品等の卸売を行う者、市場の取扱品目の保管、貯蔵、運搬等を行う者その他市場機能の充実に役立つ業務を営む者（精算代払機関、製氷冷蔵庫業） ・第2種関連事業者； 飲食店営業、理容業その他市場利用者に便益を提供する業務を営む者（金融業）
商社・メーカー	主に生鮮食料品以外の食料品や日用雑貨などの非食料品を扱う者
総合食品センター	卸売センターと配送センターから構成され、生鮮食料品とともに日配品（豆腐、漬物等）やドライ商品（菓子等）、日用雑貨等非食料品を売買参加者・買出人へ供給し、市場内での一括仕入れによるコスト削減や各店舗への配送により、小売支援を行っている
売買参加者	開設者の承認を受け、卸売業者の行うせり売又は相対取引により物品を買入れる者
買出人	市場の仲卸業者から仕入れる者。小売業者、加工業者、飲食店業者及び旅館・ホテル業者等
小売店	消費者に商品を販売する量販店、八百屋及び魚屋等
委託・買付	委託は、生産者、出荷団体及び産地仲買人等が卸売業者に品物の卸売（販売）を任せること 買付は卸売業者が、生産者、出荷団体及び産地仲買人等から直接品物を買付けすること
せり売・相対取引	せり売は、「せり人」が仲卸業者、売買参加者に公開的に競争させ、そのうち最も高い価格を申し出た者を買入手とする販売方法 相対取引は、卸売業者がせり売を行わず、買入手との話し合いによって、卸売価格、数量などを決定する販売方法

## 4 盛岡市中央卸売市場の概要

### (1) 市場施設の概要

所在地 盛岡市羽場10地割100番地

敷地面積 約234,865m<sup>2</sup>

駐車場台数 約2,200台

(単位：m<sup>2</sup>)

施設名	施設区分	延べ床面積	摘 要	
市場本棟	卸売場	11,162	青果 8,206	水産 2,956
	仲卸売場	5,585	青果 3,956	水産 1,629
	買荷保管積込所	2,890	青果 1,970	水産 920
	倉庫	2,061	青果 1,771	水産 290
	冷蔵庫	2,970	青果 1,952	水産 1,018
	管理事務所	8,193	開設者 7,960	業者 233
	業者事務所	9,167	青果 4,220	水産 4,947
	加工処理施設	3,179	青果 2,464	水産 715
	構内舗装	1,806	青果 860	水産 946
	特認施設	3,957	防雪屋根付通路(青果棟,水産棟)	
	関連商品売場	166	軽食堂,売店	
	その他	899	社員食堂,更衣室,休憩室外	
	庇(ひさし)	3,652	屋外5m庇下部	
	小計	55,687		
(仲卸配送センター)	青果配送センター	6,631	東棟,西棟	
	水産配送センター	2,186		
付加価値機能施設 (総合食品センター)	売場施設	15,095	店舗等 14,005	庇下部 1,090
	配送施設	6,432	配送施設 6,038	庇下部 394
附属棟		1,185	守衛所(3)廃棄物集積所(3)ポンプ室	
合計		87,216		

総事業費 約240億円 (財源内訳) 国庫補助金 約 64億円  
 (用地費含む) 県補助金 約 14億円  
 起債等 約 162億円

開設区域内人口 324,912人(平成23年3月1日現在) 岩手県統計資料市町村別人口動態から  
 開設区域・・・盛岡市(298,115人),矢巾町(26,797人)

第一次供給圏人口 481,027人(平成23年3月1日現在) 岩手県統計資料市町村別人口動態から  
 第一次供給圏・・・盛岡市,八幡平市

- ・岩手郡 雫石町,葛巻町,岩手町,滝沢村
- ・紫波郡 紫波町,矢巾町

( 2 ) 市場使用料

卸売業者市場使用料

販売金額の1,000分の3に相当する額

仲卸業者市場使用料

仲卸業者が業務規程第51条第2項の規定により許可を受けた場合は、その買入物品販売額の1,000分の3に相当する額

( 3 ) 施設使用料

( 単位 : 円 )

施設名	種 別	金 額 (平成23年度までの緩和措置)		使用料	
市場本棟	卸売業者卸売場使用料	青 果 部	1㎡につき月額	220	318
		水 産 物 部	"	370	529
	倉庫使用料	青 果 部	"	830	1,187
		水 産 物 部	"	690	991
	冷蔵庫使用料	青 果 部	"	1,420	2,032
		水 産 物 部	"	1,455	2,082
	業者事務所使用料		"	1,080	1,549
	仲卸業者仲卸売場使用料	青 果 部	"	765	1,095
		水 産 物 部	"	1,135	1,622
	加工施設使用料		"	735	1,054
	買荷保管積込所使用料	青 果 部	"	705	1,010
		水 産 物 部	"	905	1,299
	関連事業者売場使用料		"	885	1,269
	福利厚生施設使用料		"	1,090	1,562
	青果仲卸配送センター使用料		"	965	1,380
	水産仲卸配送センター使用料		"	1,085	1,555
会議室等使用料 (本来の用途以外は別途料金)	会 議 室	1時間につき		400	
	多目的ホール	"		800	
	調理実習室	"		500	
総合食品センター	売場施設使用料		1㎡につき月額	665	950
	配送施設使用料		"	630	900
駐 車 場	駐車場使用料		"	100	133
空 地	空地使用料		"	70	100

備 考 ; 使用面積に1㎡未満の端数があるとき又は使用面積が1㎡に満たないときは、その端数又は使用面積をそれぞれ1㎡として計算する。

( 4 ) 開場時間

午前0時から午後12時 (24時間)

( 5 ) せり開始時間

水産物部 午前6時00分

青果部 午前6時45分

## 5 青果部年度別取扱高一覧

単位〔数量  
金額  
平均単価  
トン  
千円  
円/kg〕

年度別	種別	合 計		野 菜	果 実	加 工 品
			前年度対比			
昭和 43	数 量	38,176	- %	14,364	23,777	35
	金 額	1,950,811	-	591,453	1,347,599	11,759
	平均単価	51.1	-	41.2	56.7	336.0
48	数 量	124,052	97.0	48,951	75,101	-
	金 額	11,064,737	124.9	4,650,334	6,414,403	-
	平均単価	89.2	128.8	95.0	85.4	-
53	数 量	128,469	101.3	60,061	65,133	3,275
	金 額	19,085,308	113.4	7,595,986	10,620,733	868,589
	平均単価	148.6	111.9	126.5	163.1	265.2
58	数 量	129,294	98.5	65,493	59,726	4,075
	金 額	23,652,014	110.6	11,623,942	10,703,718	1,324,354
	平均単価	182.9	112.3	177.5	179.2	325.0
63	数 量	135,815	95.7	75,124	56,885	3,806
	金 額	24,858,828	102.4	12,997,588	10,779,505	1,081,735
	平均単価	183.0	107.0	173.0	189.5	284.2
平成 5	数 量	133,990	103.9	76,930	53,282	3,778
	金 額	30,104,657	110.6	17,333,992	11,626,305	1,144,360
	平均単価	224.7	106.4	225.3	218.2	302.9
10	数 量	123,238	91.7	80,041	40,149	3,048
	金 額	28,959,848	103.1	17,607,731	10,301,491	1,050,626
	平均単価	235.0	112.4	220.0	256.6	344.7
15	数 量	102,249	100.3	67,588	31,608	3,053
	金 額	20,247,604	96.6	12,071,915	7,389,991	785,698
	平均単価	198.0	96.3	178.6	233.8	257.4
18	数 量	103,165	101.0	73,521	26,960	2,683
	金 額	20,378,031	104.5	12,443,548	7,221,252	713,230
	平均単価	197.5	103.5	169.3	267.9	265.8
19	数 量	101,827	98.7	72,225	26,971	2,631
	金 額	20,073,031	98.5	12,473,453	6,918,350	681,228
	平均単価	197.1	99.8	172.7	256.5	258.9
20	数 量	100,302	98.5	70,645	27,153	2,504
	金 額	19,304,620	96.2	12,038,866	6,574,783	690,971
	平均単価	192.5	97.6	170.4	242.1	275.9
21	数 量	97,663	97.4	68,172	27,021	2,470
	金 額	18,705,383	96.9	12,024,498	6,038,276	642,609
	平均単価	191.5	99.5	176.4	223.5	260.2
22	数 量	92,619	94.8	66,602	23,914	2,103
	金 額	20,026,043	107.1	13,008,701	6,408,898	608,444
	平均単価	216.2	112.9	195.3	268.0	289.3

注1) 青果部は、昭和43年10月1日業務開始。

注2) 上記取扱金額は、卸売業者の取扱金額である。

注3) なお、平成22年度の青果部仲卸業者の直接集荷取扱金額は 3,572,293千円である。

注4) 四捨五入により、合計と内訳が一致しない場合がある。

## 6 水産物部年度別取扱高一覧

単位〔 数量  
金額  
平均単価 トン  
千円  
円/kg〕

年度別	種別	合 計		鮮 魚	冷 凍 魚	塩干加工品
			前年度対比			
4 5	数 量	8,832	- %	3,999	1,627	3,206
	金 額	2,913,272	-	1,105,697	424,214	1,383,361
	平均単価	329.9	-	276.5	260.7	431.5
4 8	数 量	20,818	108.9	9,330	4,263	7,225
	金 額	9,354,605	133.5	3,323,298	1,776,592	4,254,715
	平均単価	449.4	122.6	356.2	416.7	588.9
5 3	数 量	24,524	103.7	11,728	4,241	8,555
	金 額	17,708,214	99.6	7,276,750	3,045,462	7,386,002
	平均単価	722.1	96.0	620.5	718.1	863.4
5 8	数 量	25,536	104.9	13,108	4,408	8,020
	金 額	19,016,739	93.9	8,934,975	2,977,346	7,104,418
	平均単価	744.7	89.5	681.6	675.4	885.8
6 3	数 量	31,011	102.6	14,676	6,589	9,746
	金 額	23,279,007	104.1	10,040,796	4,382,342	8,855,869
	平均単価	750.7	101.4	684.2	665.1	908.7
平成 5	数 量	31,128	100.7	15,499	5,207	10,422
	金 額	25,633,526	98.1	11,550,349	4,247,570	9,835,607
	平均単価	823.5	97.4	745.2	815.7	943.7
1 0	数 量	28,039	93.9	14,204	4,362	9,473
	金 額	23,174,270	94.7	11,214,869	3,680,117	8,279,284
	平均単価	826.5	100.9	789.6	843.7	874.0
1 5	数 量	26,073	100.5	13,856	4,140	8,077
	金 額	20,136,959	96.1	10,068,085	3,382,624	6,686,250
	平均単価	772.3	95.6	726.6	817.1	827.8
1 8	数 量	22,629	94.9	12,155	3,054	7,421
	金 額	18,578,425	99.0	9,307,282	2,864,572	6,406,570
	平均単価	821.0	104.4	765.7	938.0	863.3
1 9	数 量	20,877	92.3	11,020	2,991	6,866
	金 額	17,457,457	94.0	8,624,392	2,844,114	5,988,951
	平均単価	836.2	101.9	782.6	950.9	872.3
2 0	数 量	19,734	94.5	10,278	2,739	6,717
	金 額	16,801,894	96.2	8,249,031	2,507,465	6,045,399
	平均単価	851.4	101.8	802.6	915.5	900.0
2 1	数 量	19,888	100.8	10,399	2,954	6,536
	金 額	16,402,582	97.6	8,177,774	2,550,508	5,674,300
	平均単価	824.7	96.9	786.4	863.4	868.2
2 2	数 量	19,228	96.7	9,907	3,071	6,250
	金 額	15,863,715	96.7	7,998,639	2,612,081	5,252,996
	平均単価	825.0	100.0	807.4	850.6	840.5

注1) 水産物部は、昭和45年7月21日業務開始。

注2) 上記取扱金額は、卸売業者の取扱金額である。

注3) なお、平成22年度の水産物部仲卸業者の直接集荷取扱金額は 593,466千円である。

注4) 四捨五入により、合計と内訳が一致しない場合がある。

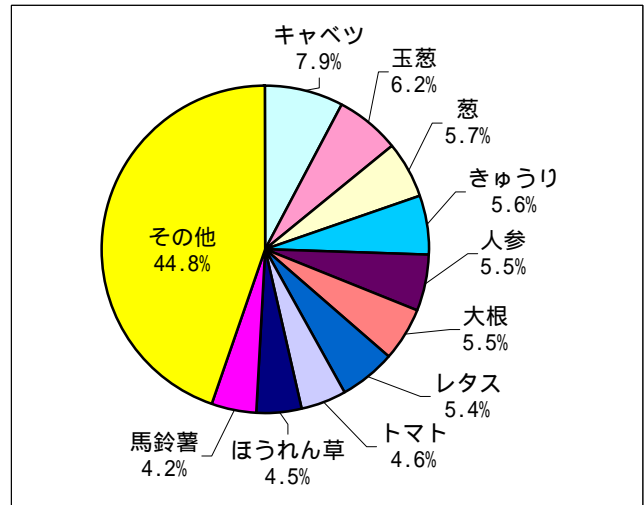
## 7 平成22年度青果部品目別・産地別取扱状況

### (1) 品目別取扱状況

#### 野菜

金額：千円  
比率：%

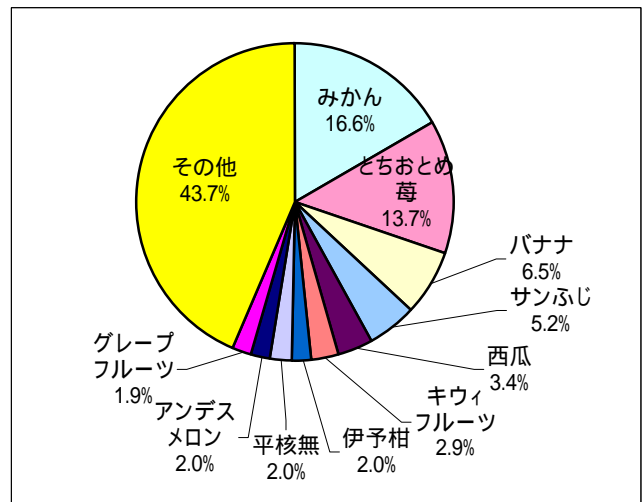
順	品目	取扱高金額	比率
1	キャベツ	1,025,517	7.9
2	玉葱	806,902	6.2
3	葱	746,119	5.7
4	きゅうり	734,306	5.6
5	人参	720,509	5.5
6	大根	716,163	5.5
7	レタス	698,389	5.4
8	トマト	597,340	4.6
9	ほうれん草	584,346	4.5
10	馬鈴薯	546,678	4.2
	その他	5,832,432	44.8
	計	13,008,701	100.0



#### 果実

金額：千円  
比率：%

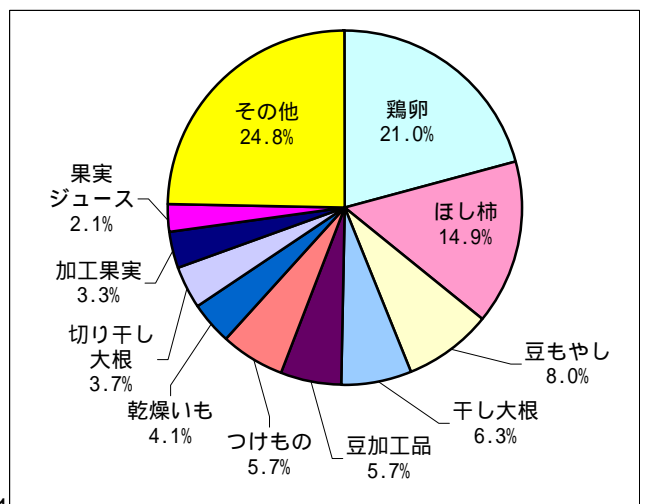
順	品目	取扱高金額	比率
1	みかん	1,065,532	16.6
2	とちおとめ 苺	876,956	13.7
3	バナナ	417,774	6.5
4	サンふじ	331,523	5.2
5	西瓜	220,616	3.4
6	キウイフルーツ	187,165	2.9
7	伊予柑	131,199	2.0
8	平核無	127,133	2.0
9	アンデスメロン	126,955	2.0
10	グレープフルーツ	124,647	1.9
	その他	2,799,398	43.7
	計	6,408,898	100.0



#### 加工品

金額：千円  
比率：%

順	品目	取扱高金額	比率
1	鶏卵	127,520	21.0
2	ほし柿	90,756	14.9
3	豆もやし	48,888	8.0
4	干し大根	38,255	6.3
5	豆加工品	34,931	5.7
6	つけもの	34,447	5.7
7	乾燥いも	24,673	4.1
8	切り干し大根	22,577	3.7
9	加工果実	20,329	3.3
10	果実ジュース	15,349	2.5
	その他	150,720	24.8
	計	608,444	100.0

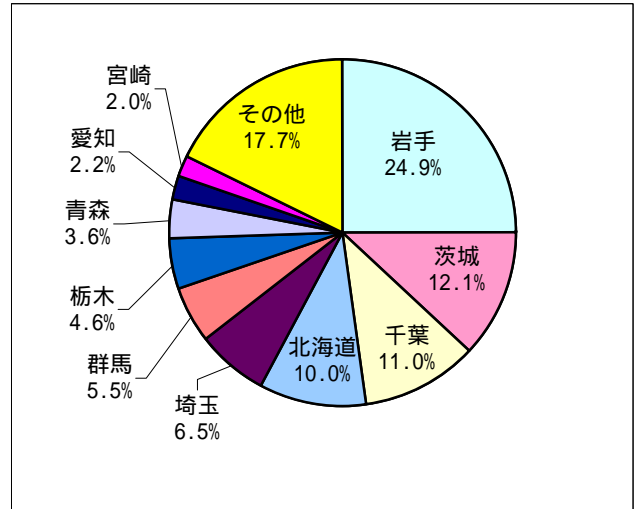


(2) 産地別取扱状況

野 菜

金額：千円  
比率：%

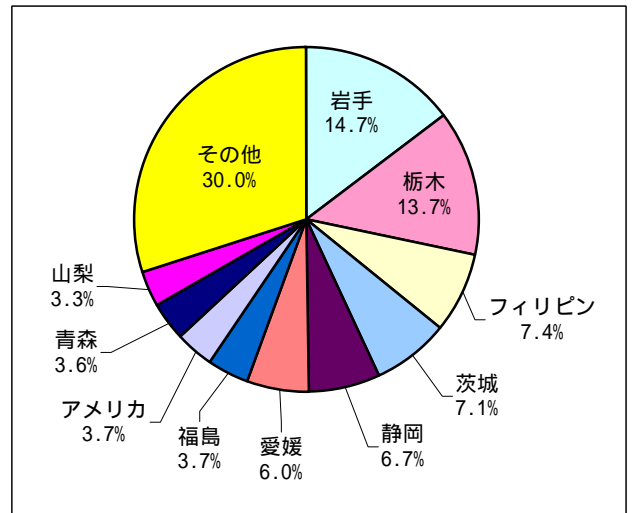
順	産地	取扱高金額	比率
1	岩手	3,234,523	24.9
2	茨城	1,573,404	12.1
3	千葉県	1,425,322	11.0
4	北海道	1,297,232	10.0
5	埼玉県	845,058	6.5
6	群馬	710,668	5.5
7	栃木	601,767	4.6
8	青森	471,691	3.6
9	愛知県	285,484	2.2
10	宮崎	254,695	2.0
	その他	2,308,856	17.7
	計	13,008,701	100.0



果 実

金額：千円  
比率：%

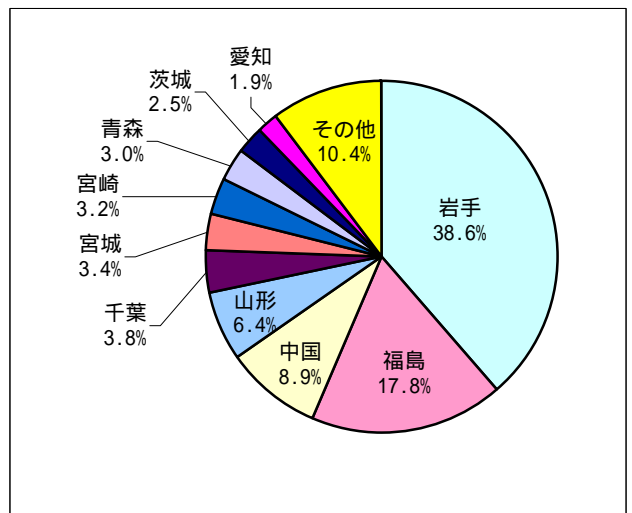
順	産地	取扱高金額	比率
1	岩手	939,637	14.7
2	栃木	877,217	13.7
3	フィリピン	476,371	7.4
4	茨城	458,116	7.1
5	静岡県	431,981	6.7
6	愛媛	381,589	6.0
7	福島	240,327	3.7
8	アメリカ	239,198	3.7
9	青森	229,713	3.6
10	山梨	213,037	3.3
	その他	1,921,711	30.0
	計	6,408,898	100.0



加 工 品

金額：千円  
比率：%

順	産地	取扱高金額	比率
1	岩手	235,120	38.6
2	福島	108,302	17.8
3	中国	54,314	8.9
4	山形	38,637	6.4
5	千葉県	22,991	3.8
6	宮城	20,939	3.4
7	宮崎	19,561	3.2
8	青森	18,466	3.0
9	茨城	15,293	2.5
10	愛知	11,479	1.9
	その他	63,341	10.4
	計	608,444	100.0

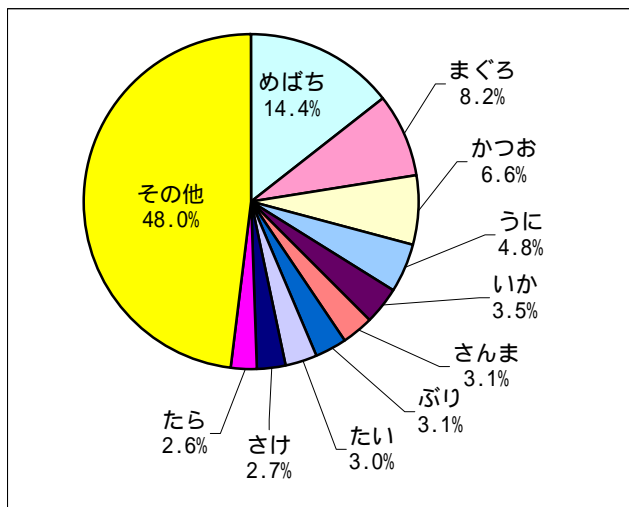


## 8 平成22年度水産物部品目別・産地別取扱状況

### (1) 品目別取扱状況

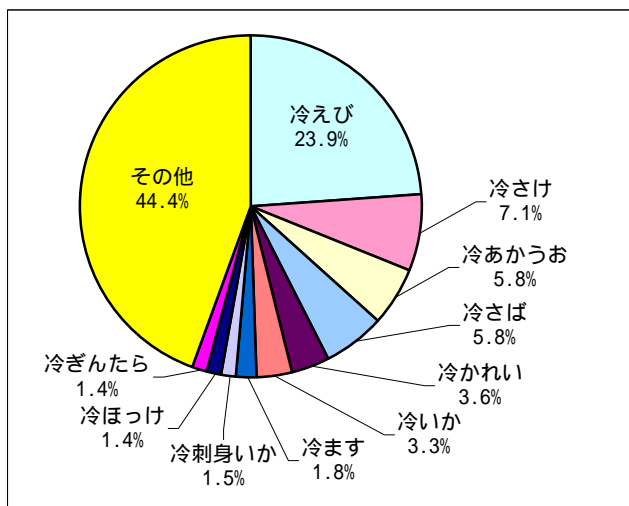
鮮 魚 金額：千円  
比率：%

順	品 目	取扱高金額	比 率
1	めばち	1,152,182	14.4
2	まぐろ	653,612	8.2
3	かつお	530,731	6.6
4	うに	380,411	4.8
5	いか	281,580	3.5
6	さんま	250,520	3.1
7	ぶり	244,280	3.1
8	たら	241,551	3.0
9	さけ	211,976	2.7
10	たい	210,189	2.6
	その他	3,841,606	48.0
	計	7,998,639	100.0



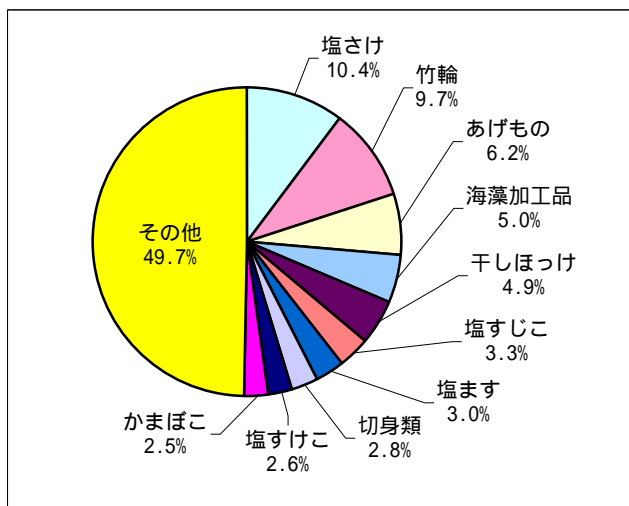
冷 凍 魚 金額：千円  
比率：%

順	品 目	取扱高金額	比 率
1	冷えび	623,356	23.9
2	冷さけ	186,655	7.1
3	冷あかうお	151,264	5.8
4	冷さば	151,239	5.8
5	冷かれい	93,499	3.6
6	冷いか	86,546	3.3
7	冷ます	46,820	1.8
8	冷刺身いか	39,839	1.5
9	冷ほっけ	37,434	1.4
10	冷ぎんたら	36,610	1.4
	その他	1,158,818	44.4
	計	2,612,081	100.0



塩干加工品 金額：千円  
比率：%

順	品 目	取扱高金額	比 率
1	塩さけ	547,159	10.4
2	竹輪	507,329	9.7
3	あげもの	328,064	6.2
4	海藻加工品	264,672	5.0
5	干しほっけ	255,296	4.9
6	塩すじこ	170,965	3.3
7	塩ます	159,450	3.0
8	切身類	145,769	2.8
9	塩すけこ	135,492	2.6
10	かまぼこ	129,791	2.5
	その他	2,609,011	49.7
	計	5,252,996	100.0

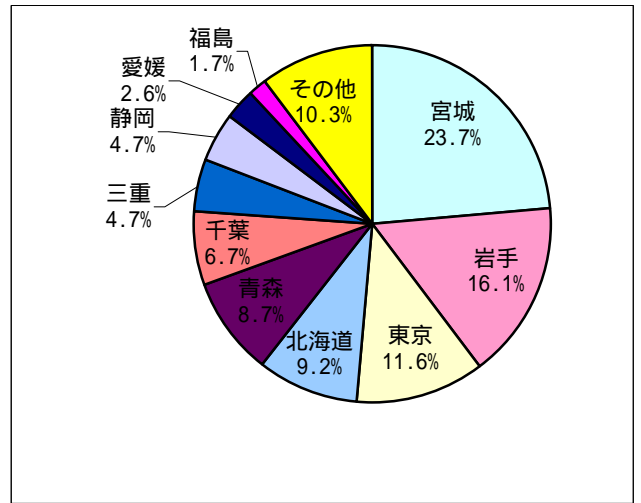


(2) 産地別取扱状況

鮮 魚

金額：千円  
比率：%

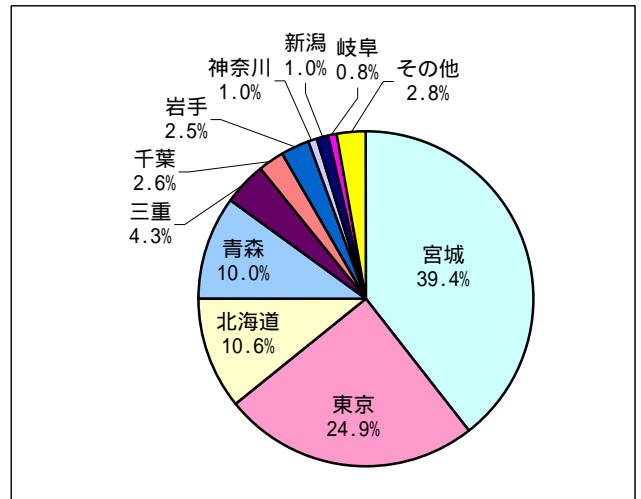
順	産地	取扱高金額	比率
1	宮城	1,899,121	23.7
2	岩手	1,287,745	16.1
3	東北	929,306	11.6
4	北海道	734,059	9.2
5	青森	696,209	8.7
6	千葉	533,786	6.7
7	三重	375,003	4.7
8	静岡	373,376	4.7
9	愛媛	206,957	2.6
10	福島	137,452	1.7
その他		825,625	10.3
計		7,998,639	100.0



冷 凍 魚

金額：千円  
比率：%

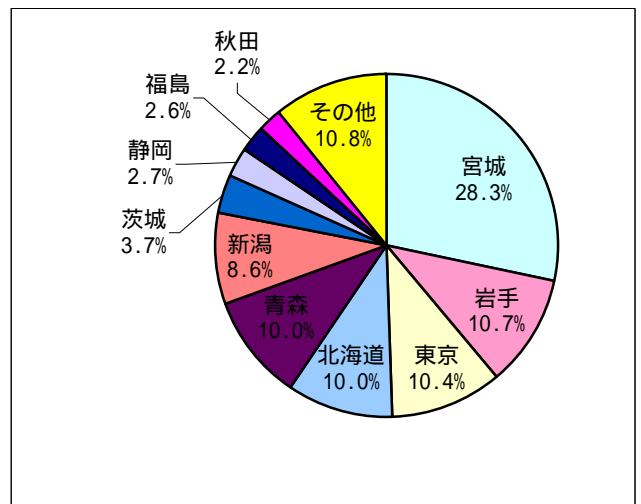
順	産地	取扱高金額	比率
1	宮城	1,028,158	39.4
2	東北	651,159	24.9
3	北海道	277,755	10.6
4	青森	260,608	10.0
5	三重	111,302	4.3
6	千葉	68,816	2.6
7	岩手	66,532	2.5
8	神奈川	26,739	1.0
9	新潟	26,088	1.0
10	岐阜	21,599	0.8
その他		73,326	2.8
計		2,612,081	100.0



塩干加工品

金額：千円  
比率：%

順	産地	取扱高金額	比率
1	宮城	1,486,699	28.3
2	岩手	562,414	10.7
3	東北	548,769	10.4
4	北海道	527,041	10.0
5	青森	523,208	10.0
6	新潟	452,996	8.6
7	茨城	194,214	3.7
8	静岡	140,261	2.7
9	福島	135,759	2.6
10	秋田	115,338	2.2
その他		566,296	10.8
計		5,252,996	100.0



## 9 残留農薬検査の実施状況

### 検査について

当市場では、平成 18 年度から自主的に卸売業者、仲卸業者、売買参加者及び開設者が検査チームを編成し、「イムノアッセイ法」による簡易分析を用いて、当市場を流通する青果物について残留農薬検査を実施しています。

イムノアッセイ法は食品衛生法に定める公定法ではありませんが、抗原抗体反応を応用した簡易分析検査法であり、農産物の生産者が出荷前に事前チェックする際に用いられる等、検査結果は機器を使った精密検査と整合性があり、公定法に比べ短時間で検査結果判定ができるなどの利点があります。

なお、平成 22 年度は残留農薬検査について合計 7 回(平成 22 年 5 月～22 年 11 月)実施しております。

### 検査の結果

残留農薬基準値超過はありませんでした。

### 検査の内容

青果物	検査農薬	検体数	基準値	測定検出値
きゅうり	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	6 検体	5ppm	0ppm
	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	12 検体	1ppm	0ppm
	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	1ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	9 検体	5.0ppm	0ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	3 検体	5ppm	0ppm
ピーマン	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	3ppm	0ppm
	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	1ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	3 検体	10ppm	0ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	6 検体	7ppm	0ppm
ほうれん草	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	6 検体	5ppm	0ppm
トマト	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	1ppm	0ppm
	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	1.0ppm	0.4ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	6 検体	5ppm	0ppm
ミニトマト	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	1ppm	1ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	3 検体	5ppm	0ppm

青果物	検査農薬	検体数	基準値	測定検出値
キャベツ	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	0.7ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	6 検体	5.0ppm	0ppm
アスパラガス	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
なす	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	1ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	3 検体	5.0ppm	0ppm
白菜	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	3 検体	1ppm	0ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	3 検体	2ppm	0ppm
ねぎ	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	6 検体	3ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	3 検体	5.0ppm	0ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	3 検体	5ppm	0ppm
りんご	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	0.5ppm	0ppm
	殺虫剤:クロルフェナピル(コテツ)	6 検体	2ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	6 検体	10ppm	0ppm
いちご	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	6 検体	5ppm	0ppm
	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	3ppm	0ppm
ぶどう	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	3 検体	25ppm	0ppm
レタス	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	3 検体	1ppm	0ppm
春菊	殺虫剤:アセタミプリド(モスピラン)	3 検体	5ppm	0ppm
	殺虫剤:イミダクロプリド(アドマイヤー)	3 検体	2.5ppm	0ppm
	殺菌剤:イプロジオン(ロブラール)	3 検体	5.0ppm	0ppm
大根	殺菌剤:クロロタロニル(ダコニール)	9 検体	0.1ppm	0.1ppm
合 計	合 計	168 検体		

測定検出値は、基準値より1けた多く求め、多く求めた1けたについて四捨五入した。

## 10 盛岡市中央卸売市場運営協議会

開設者（市長）の諮問に応じて市場の運営に係る重要事項について、調査審議するため条例に基づき市場運営協議会を設置しています。委員会は学識経験者、生産者、消費者、市場関係者等各界の代表者で構成されています。

（任期 平成22年12月1日～平成24年11月30日）

氏名	区分	役職名
横山英信	学識経験者	岩手大学人文社会科学部教授
古澤眞作	学識経験者	盛岡商工会議所専務理事
菊池寛	学識経験者	岩手県農林水産部流通課総括課長
杉本博	生産者	全国農業協同組合連合会岩手県本部長
下川陽子	生産者	岩手中央農業協同組合理事
佐々木義三郎	生産者	岩手県漁業協同組合連合会常務理事
藤本美智	消費者	盛岡市地域女性団体協議会会長
金子成子	消費者	岩手県消費者団体連絡協議会 （いわて生活協同組合 常務理事）
村上好子	消費者	盛岡消費者友の会会長
浅沼優治	市場関係者	丸毛盛岡中央青果(株)代表取締役社長
佐賀政司	市場関係者	盛岡水産(株)代表取締役社長
藤田光孝	市場関係者	岩手魚類(株)代表取締役社長
瀬川淳	市場関係者	盛岡青果卸売協同組合理事長
佐藤民生	市場関係者	盛岡水産物卸売協同組合理事長
工藤清博	市場関係者	盛岡青果商業協同組合理事長
星川修一郎	市場関係者	盛岡水産物商業協同組合理事長

## 11 市場内関係業者 (平成 23 年 5 月現在)

### < 青果部 >

#### ( 1 ) 卸売業者 1 社

丸毛盛岡中央青果(株)	代表取締役	浅沼優治	614-1200
	昭和 42 年創業 資本金 4,900 万円		

#### ( 2 ) 仲卸業者 11 社

(有) 佐々寅青果	代表取締役	佐々木 省 三	614-1240
岩手中央青果(株)	代表取締役	笹 森 茂	656-9205
(有) 澁川青果	代表取締役	澁川 清 志	614-1270
(株) 丸庄青果	代表取締役	吉 田 順 一	614-1300
(株) みちのくフルーツ	代表取締役	大 川 由紀夫	614-1350
(株) 松 紀	取締役営業本部長	川 辺 和 昭	637-3075
(有) 会津青果	代表取締役	笹 森 千代子	614-1385
(有) 青勝青果	代表取締役	田 中 敏 勝	614-1400
(株) 花次青果	代表取締役	高 橋 利 実	614-1414
(株) 米内青果	代表取締役	米 内 征四郎	614-1422
(株) 盛印盛岡青果	代表取締役	森 正 介	614-1460

( 3 ) 売買参加者 青果部 110人

( 4 ) 盛岡青果卸売協同組合 理事長 瀬川 淳 614-1500

( 5 ) 盛岡青果商業協同組合 理事長 工藤 清博 614-1530

### < 水産物部 >

#### ( 1 ) 卸売業者 2 社

盛岡水産(株)	代表取締役	佐賀政司	614-1600
	昭和 45 年創業 資本金 5,000 万円		
岩手魚類(株)	代表取締役	藤田光孝	614-1001
	昭和 45 年創業 資本金 5,000 万円		

#### ( 2 ) 仲卸業者 5 社

(株) 丸一魚類	代表取締役	伊東徳行	614-1700
(株) 大水	代表取締役	佐久山安雄	614-1750
(株) 丸和水産	代表取締役	志和哲雄	614-1800
(株) 田清水産	代表取締役	工藤吉昭	614-1820
(株) 東北水産	代表取締役	佐藤民生	614-1840

( 3 ) 売買参加者 水産物部 69人

( 4 ) 盛岡水産物卸売協同組合 理事長 佐藤民生 614-1855

( 5 ) 盛岡水産物商業協同組合 理事長 星川修一郎 614-1860

( 6 ) 盛岡水産物買参会 会 長 畠山尚巳 614-1890

< 関連事業者等 >

(金融業)

(株) 岩手銀行 津志田支店 盛岡市場総合食品センター出張所	支店長	昆 健史	637-7001
-----------------------------------	-----	------	----------

(代払業務)

盛岡青果商業協同組合	理事長	工藤清博	614-1530
------------	-----	------	----------

(精算事務)

盛岡中央卸売市場水産物精算(株)	代表取締役	佐賀政司	614-1890
------------------	-------	------	----------

(食料品販売等)

(株) 平川食品	代表取締役	平川真人	614-1900
(株) 青三	代表取締役	吉田秀樹	614-1915
(株) 澤田屋	代表取締役	澤田朝吉	614-1917
(有) 丸源生花店	代表取締役	浅沼源造	614-1924
(株) 橋市	支店長	白石正典	614-1928
(有) みらい	代表取締役	佐々木 努	614-1885
(株) ベルプラス ビッグプロ	店長	木村 憲一	614-1926

(運送業)

(有) 丸善配送	代表取締役	石黒善男	614-1155
かねまつ通商(株)	代表取締役	柳畑幸男	637-7881
(有) 北立	代表取締役	菅原 登	632-6071
合資会社 丸才	代表社員	中新井田 稔	0194-52-1341

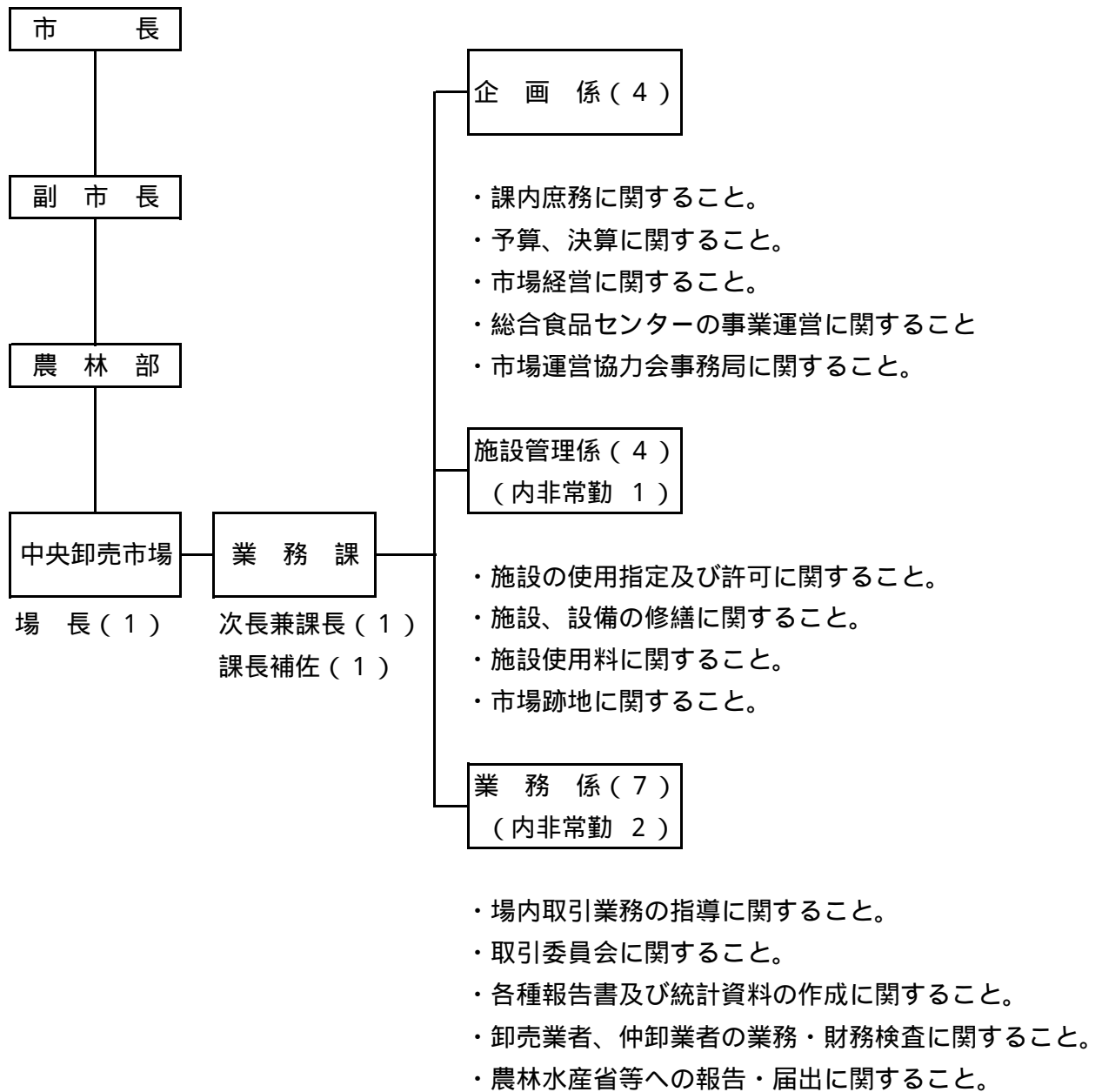
(製氷冷蔵庫業)

盛岡中央市場冷蔵(株)	代表取締役	藤田光孝	638-7605
-------------	-------	------	----------

(その他)

全日本食品(株)	盛岡営業所長	蒲生孝保	614-1030
盛岡市中央卸売市場関連事業者協同組合	理事長	吉田秀樹	614-1885
盛岡市中央卸売市場総合食品センター振興会	会長	吉田 順一	614-1300

## 12 盛岡市中央卸売市場の管理機構と事務分掌（平成23年4月現在）



### 13 平成23年度盛岡市中央卸売市場費特別会計予算（当初予算）

#### 歳入の部

（単位：千円）

科 目	本年度 予算額 A	前年度 予算額 B	比較増減 (A - B)	説 明
使用料・手数料	651,697	657,537	5,840	
市場使用料	119,029	116,346	2,683	青果物取扱高割使用料 71,033 水産物取扱高割使用料 47,996
施設使用料	522,328	530,307	7,979	青果物卸売場等使用料 229,732 水産物卸売場等使用料 124,404 関連事業者施設使用料 164,714 会議室等使用料 3,478
土地使用料	10,339	10,883	544	行政財産使用料 10,339
督促手数料	1	1	0	
財産収入	5	77	72	基金運用収入 5
繰入金	727,967	720,625	7,342	一般会計繰入金 708,968 市場財政調整基金繰入金 18,999
繰越金	1	1	0	
諸収入	182,554	203,579	21,025	
貸付金元利収入	0	345	345	集荷対策運用資金融資預託金元利収入
雑入	182,554	203,234	20,680	電気・電話等使用料立替金収入
合 計	1,562,224	1,581,819	19,595	

#### 歳出の部

（単位：千円）

科 目	本年度 予算額 A	前年度 予算額 B	比較増減 (A - B)	説 明
一般管理費	488,496	507,634	19,138	市場運営協議会委員報酬 288 職員給与費 115,854 消耗品費 1,734 燃料・光熱水費 168,698 施設等修繕料 3,010 電報電話料 20,527 火災保険料 2,209 建物管理業務等委託料 109,905 市場運営協力会負担金 1,585 市場跡地関係費 42 中央卸売市場財政調整基金積立金 6 その他の経費 64,638
運営事業費	16,929	17,309	380	検査等強化費 609 市場活性化事業費 620 市場冷蔵建設費償還補助金 15,700
公 債 費	1,056,299	1,056,376	77	市場整備事業に係る事業債の償還等
予 備 費	500	500	0	
合 計	1,562,224	1,581,819	19,595	

## 14 開設都市，市場数，取扱金額一覧

・ 全国の中央卸売市場数	・ 全国の中央卸売市場総取扱金額
青果市場 60市場 (45都市)	青果物 19,102億円
水産市場 46市場 (40都市)	水産物 18,275億円
花き市場 22市場 (18都市)	花き 1,402億円
食肉市場 10市場 (10都市)	食肉 2,158億円
	その他 271億円

- (注)1. 中央卸売市場の総合市場は48，青果物単独市場は11，水産物単独市場は5である。  
 2. 開設市場数は平成22年度末，( )内は平成21年度。取扱金額は平成21年度。  
 3. 平成22年4月1日に山形市中央卸売市場及び松山市中央卸売市場(花き部)が地方卸売市場に転換したことにより，平成22年4月現在の中央卸売市場数は合計で75である。

資料：農林水産省総合食料局流通課調べ

(単位：億円)

番号	開設都市名	開設市場数								取扱金額				
		計	青水花	果産き	青水	果産	青花	果き	青果	水産	食肉	青果	水産	食肉
1	札幌	1			1						586	975		
2	室蘭	(1)			(1)						23	29		
3	青森	1	1								142	294		10
4	八戸	1					1				186			14
5	盛岡	1			1						187	164		
6	仙台	2	1							1	468	708	176	99
7	秋田	1	1								133	155		23
8	山形	(1)			(1)						87	81		
9	福島	1	1								133	71		19
10	いわき	1	1								155	153		9
11	宇都宮	1			1						317	182		
12	さいたま	1								1			86	
13	東京都	11	1	1	4	3	1	1			5,075	4,659	968	884
14	千葉	1			1						220	187		
15	船橋	1			1						115	178		
16	横浜	3	1	1						1	1,157	772	144	22
17	川崎	1	1								169	310		32
18	甲府	1			1						109	103		
19	静岡	1			1						252	264		
20	浜松	1			1						270	296		
21	新潟	1	1								224	447		31

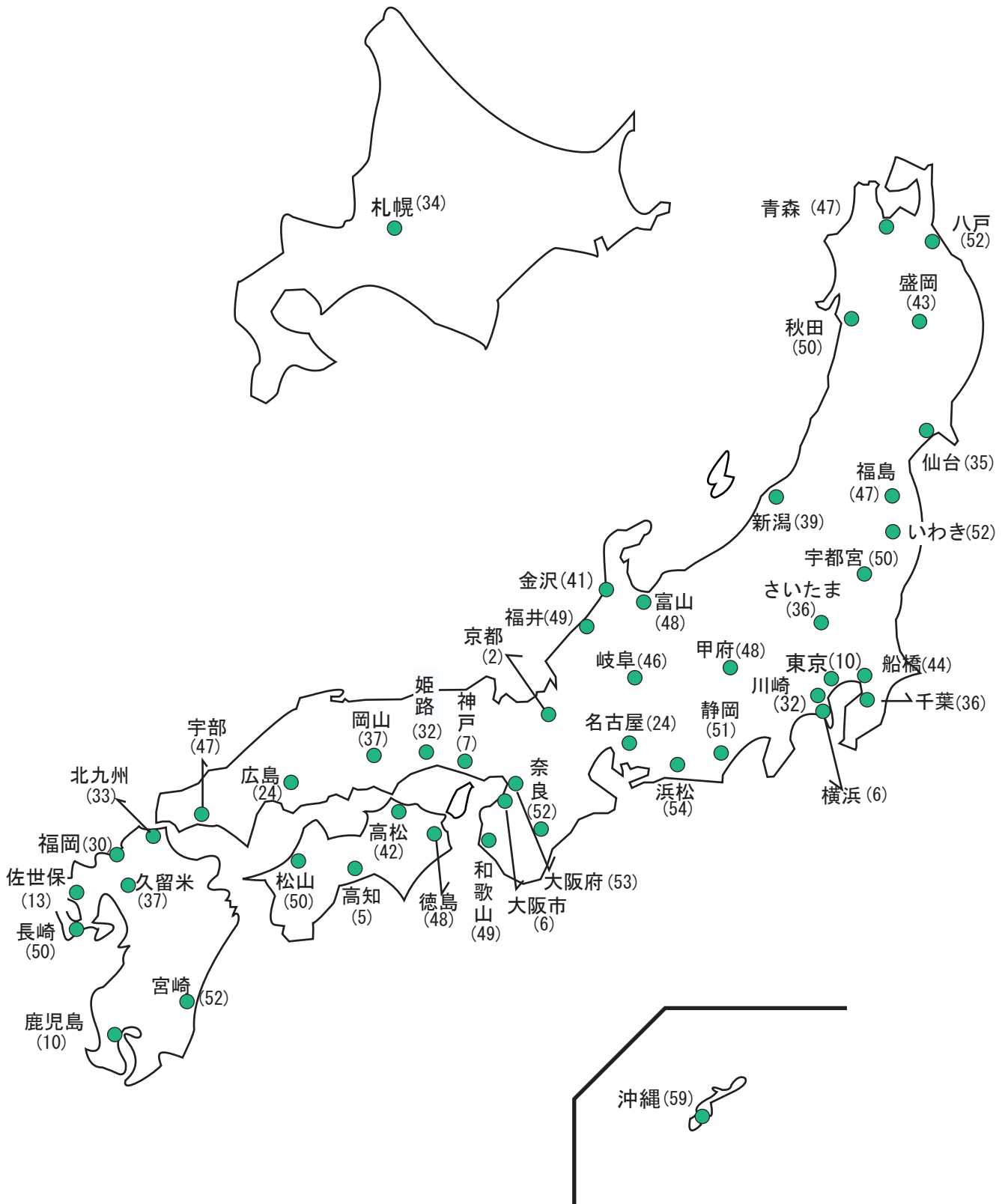
(単位：億円)

番号	開設都市名	開設市場数							取扱金額						
		計	青 水 花	果 産 き	青 水	果 産	青 花	果 き	青 果	水 産	食 肉	花 き			
22	富山	1	1									124	120		12
23	金沢	1			1							213	471		
24	福井	1	1									100	126		10
25	名古屋	3			2					1		1,273	1,372	170	
26	岐阜	1			1							449	162		
27	京都	2			1					1		648	455	71	
28	大阪府	1			1							460	452		
29	大阪市	3			2					1		1,542	1,677	244	
30	神戸	3	1		1					1		374	510	124	34
31	姫路	1			1							109	225		
32	和歌山	1			1							153	146		
33	奈良県	1			1							291	157		
34	岡山	1	1									218	298		45
35	広島	3	1					1		1		473	340	53	65
36	宇部	1						1				92			
37	徳島	1			1							182	246		
38	高松	1	1									157	167		21
39	松山	1					(1)			(1)		206	109		20
40	高知	1			1							147	131		
41	北九州	1			1							319	177		
42	福岡	5						3	1	1		546	525	122	
43	長崎	1						1				152			
44	佐世保	2						1	1			61	67		
45	久留米	1			1							94	66		
46	宮崎	1	1									294	80		21
47	鹿児島	2						1	1			283	167		
48	沖縄県	1					1					133			31
合計		74	16		27		6	11	4	10		19,102	18,275	2,158	1,402

卸売市場データ集（農林水産省総合食料局流通課）平成22年度版（平成23年7月）より

# 全国の中央卸売市場

※( )内は開設年  
平成23年4月現在



## 盛岡市中央卸売市場の豆知識

事項	内訳
1日の平均取扱高（平成22年度） 年間取扱高 ÷ 開市日数	青果部 73,625 千円 / 日 水産物部 58,109 千円 / 日
1日の水使用量（平成22年度） 年間使用量 ÷ 365日	157 m <sup>3</sup> / 日 内訳 上水 84 m <sup>3</sup> 井水 73 m <sup>3</sup>
1日の電気使用量（平成22年度） 年間使用量 ÷ 365日	26,259Kwh / 日
1日の廃棄物量（平成22年度） 年間廃棄物量 ÷ 開市日数 （約1,512トン）	5,558kg / 日 内訳 可燃ごみ 3,738kg 資源ごみ 1,820kg
1年間の見学者数（平成22年度）	1,114人（33団体） 内訳 業界団体 24人 一般団体（学校含） 1,054人 行政機関 66人
市場まつり来場者数（平成22年度）	約35,000人
市場内のフォークリフト、ターレットの台数（平成22年6月末現在）	フォークリフト 183台、ターレット3台 内訳 電動車 162台（87.1%） ディーゼル車等 24台
市場敷地内の自動販売機の数	38台
市場敷地内の防犯カメラの数	45台
市場の敷地の広さ	敷地面積 234,865 m <sup>2</sup> （東京ドーム 5個分）
本棟の外周	1周 1,000m（東西100m、南北400m） ループ道路 1周 1,600m

（平成22年度の開市日数：青果部272日、水産物部273日）

鹿妻本堰



施設配置図

## 盛岡市中央卸売市場

〒020 - 8567 盛岡市羽場 10地割100番地

TEL . 019 (614) 1000 FAX . 019 (614) 1020

E-mail : [market@city.morioka.iwate.jp](mailto:market@city.morioka.iwate.jp)

URL : <http://www.morioka-sijyo.gr.jp>